

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 大分県立臼杵高等学校
(※正式名称を記載)

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒875-0042

E-mail a32400@oen.ed.jp

Website http://www.kou.oita-ed.jp/usuki/index.html

幼児児童生徒数 男子 291名 女子 300名 合計 591名
幼児・児童・生徒の年齢 16歳～18歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「この地で学ぶ、この地で伸びる、この地で輝く」を学校スローガンとしてとして、ESDを地域とのつながり、関わりによる地域貢献と捉え、ESDの実践を通して地域が抱える課題を自らの問題として捉えて行動を起こせる人間の育成を目標とした。

具体的には、自律的・主体的な学習、所属感の強い集団、中学校・地域・保護者との連携を柱に、①募金に係わる活動、②防災避難に係わる教育、③人権に係わる学習、④地域の伝統文化に係わる学習を行った。

① 募金に係わる活動

平成29年の夏から秋にかけて大分県を襲った北部九州豪雨や台風18号の被災地支援義援金のための街頭募金を行った。クラスにも被災した級友がいたため、いつも以上に親身になって募金を呼びかけた。また、24時間テレビのチャリティー街頭募金や世界寺子屋運動のチャリティー・クッキーの作成・販売、書き損じハガキ回収活動等を通じて、世界の貧困問題の解決にも貢献したいというグローバルな視野を培った。

② 防災避難に係わる教育

海拔 2.6m、海岸から 500mに位置する本校では、近い将来に起こるであろうと予測される南海トラフ地震に備えて、防災教育にも力を入れており、災害時には安全に避難するだけでなく、「支援者」としても行動できる心身ともにたくましい人間の育成に取り組む。平成 26 年には東日本大震災被災地を生徒が視察。臼杵市総合防災訓練への参加、ジュニア防災リーダーの育成、生徒による避難所運営等、実際の災害を想定した実践的な人材育成を図る。避難訓練も毎回あらゆるケースを想定して事前予告無しで年 3 回実施しており、その都度防災アドバイザーからの助言・指導を受けながら能力・資質の習得に取り組んでいる。

③ 人権に係わる学習

近隣の特別支援学校と各学期に 1 回ずつ共同学習を行った。特別支援学校の生徒と一緒にグループ活動や作業、スポーツに取り組むことを通じて、「障がい者」としてではなく、一人の人間として出会い、個人的な信頼関係を築くことの大切さを学んだ。また、高齢者や障害者福祉施設のイベントにボランティア・スタッフとして参加し、常に相手の人権に配慮しながら、状況や個性に応じて同じ目線でコミュニケーションを取ることを心がけていた。

④ 地域の伝統文化に係わる学習

地域伝統の祇園祭では、御渡おわたりや御還おかえりの際に、沿道でのお世話係のボランティアを務めた。祭りの趣旨や地域住民の思いを知り、伝統を守り、次の世代に引き継ぐことの意義を学んだ。また、県内外から多くの観光客が訪れる「うすき竹宵」では、オブジェの作成や観光客のための道案内を担当した。観光客に対して「おもてなし」の精神で接し、地域の魅力をアピールすることで地域に貢献する喜びを実感し、郷土愛をいっそう深めた。

①募金に係わる活動 (ユネスコ寺子屋運動)



②防災避難に係わる教育

(事前予告無しの避難訓練)



③人権に係わる学習 (共同学習会)



④地域の伝統文化に係わる学習

(臼杵の紙雛づくり)



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

- ・新聞や雑誌の切り抜き
- ・「ユネスコで世界を読む」(古今書院)
- ・日本ユネスコ協会連盟 HP

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

自主性・創造性にあふれ調和のとれた個性豊かな人間の育成を目指した教育目標を掲げ、組織的で系統的な教育課程を展開している。

1年次は、「臼杵いきいきプラン」と銘打った「総合的な学習の時間」で社会や地域の抱える課題について、課題を設定し探究的な調査・研究を実施、2月に行われる全体発表会で大学教授や地元企業の有識者、臼杵市議会議員を審査員に招いて提案。

また、1・3・5・7・8・11・12月に行われる地域行事や祭祀に生徒会や部活動がボランティアとして参加するなど伝統文化の継承を推進。本年度はのべ150名の生徒が参加。

さらに地域の清掃活動を年3回実施、本年度は台風18号被害による浸水被害等もあり1・2年生全員による清掃活動も実施。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

新学習指導要領の実施に向けて、教科横断的な学習要素を備えた、総合的な学習の時間を来年度リニューアルすべく11月より作業PT部会を立ち上げ、現在まで6回実施。それにより、年次進行で3学年を見通した「総合的な探究の時間」を構築。組織的かつ系統的な課題探究、自己実現、地域貢献を目指し教育課程を整備中。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校生活アンケートを年2回実施。12月の調査では「所属感を感じる」が93%、「学校が好き」が92%と肯定的割合が県下普通科高校の平均よりも高く、重点目標である所属感の強い集団、中学校・地域・保護者との連携が学校関係者評価や委員監査で高い評価。原因の一つは、日常的で地道な社会貢献、地域貢献活動や事前予告無しの防災教育、地域と連携した交通安全指導等の影響と考える。来年度は、生徒の自主性・自律的態度を更に醸成し活動の推進を目指す。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

臼杵高校の HP は、県下最高の更新回数(500回以上/年)を誇ると共に、生徒の活動をリアルタイムで情報発信。また、自治体市報への隔月での情報掲載、学校情報紙(32回/年)の発行と毎回3,200枚を印刷し近隣中学校や公共施設等へ配布。さらにユネスコ部では「ユネスコ通信」を2回発行。積極的な情報発信により、学校関係者はもとより、地域や保護者、同窓生等もリアルタイムでの情報を享受できるので、地域の信頼を得るとともに、応援や支援を多方面から享受。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

ユネスコ部は、高齢者福祉施設や障がい者施設と連携した支援活動を実施。日本赤十字や青少年赤十字協会の支援を受けて救急救命法の講習を実施し、コンテストにも参加、「救命の連鎖」部門において入賞。

また、自治体の高齢者支援課や地域包括センターと協働した認知症サポート活動にも次年度からの参加予定。

県教育委員会が主催するグローバルリーダー育成塾に4回、36名が参加。大分県内の高校生や大学生、留学生やALTとの交流で大いに刺激を受け、国際理解や多様性について学習。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

本年度は3月に行われた「臼杵ひな祭り」に出展する美術作品「金箔風雛壇」と「千代紙正二十面体下げもん」を三重総合高校と合同で作成・展示した。

ユネスコ部顧問は12月に開催された第9回ユネスコスクール全国大会に本年度初めて参加。ユネスコスクールの中心的な活動を行うユネスコ部の交流・ネットワーク形成までには現段階では至っていないものの、次年度以降、積極的な働きかけによりネットワーク形成を支援。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

ユネスコ部は週1回の学習会を水曜日に開催し、今日の日本のみならず、世界が抱える諸問題についての理解が深まるような教材を準備して指導者から情報提供を実施。

また、ユネスコ部の活動の後には感想と反省をノートにまとめ記事として「ユネスコ通信」に掲載。生徒自身に活動を評価させ、振り返らせる事でメタ認知が深まるとともに活動を更に充実したより内容のあるものにブラッシュアップ。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

- 4月 ユネスコ研修会、街頭募金活動（あしなが学生募金）
5月 支援学校運動会、防災避難訓練、地域の祭り
6月 薬物乱用防止キャンペーン
7月 支援学校との共同学習会、地域のまつり、地域清掃活動、
円ブリオ募金講演会
8月 地域の祭り、高齢者福祉施設夏祭り、24時間チャリティー募金、
ユネスコ交流会、中学生への学習サポーター活動
9月 文化祭での募金活動（クッキー販売）
10月 支援学校との共同学習会
11月 街頭募金活動（世界寺子屋運動）、地域の祭り、障がい者施設訪問
12月 街頭募金活動（歳末助け合い）、防災避難訓練、地域清掃活動
1月 支援学校との共同学習会、地域の祭り、赤十字救急救命法講習会、
地域清掃活動
2月 募金活動（書き損じハガキ）、赤十字救急救命法コンテスト、
地域の祭り準備、防災避難訓練
3月 地域の祭り、地域清掃活動